

職場編

令和元年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。また、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や職場で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を次のとおりとし、全県的な県民運動を推進しています。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（都道府県別平成29年度実績）」では、山形県は920gで少ない順から全国18位です。平成29年度におけるもっとも少なかった長野県の817gより、約100g多い状況です。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

職場全体でごみ減量に取り組むことで、環境面だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、目標管理の徹底、社員等の意識向上など、経営面での効果もあげることができます。以下の3つの運動に、積極的に取り組みましょう。

食品ロスの削減（食べ切り運動）

◆宴会の食べ残しは、食品提供量の14.2%。7皿のうち1皿が廃棄されていることに相当します。（出典：平成27年度農林水産省「食品ロス統計調査・外食調査」）

◆日本の年間の食品ロス646万t(平成27年度推計)は、国連世界食糧計画による食料援助量約380万tの約1.7倍

○食べられる量だけ注文しましょう

食べる人の嗜好や年齢層等を考えながら食べ切れる量に配慮して、メニューや料理の量を選びましょう。

○「3010（さんまる・いちまる）運動」に取り組みましょう

できたての料理を味わい、料理を楽しむ時間を作りましょう。例えば、料理が出てから30分、お開き前10分は、席を立たずに料理を楽しむ時間にするなど、会食毎に呼びかけましょう。

※「2010（にいまる・いちまる）運動」や「2510（にこっと）運動」など、会食の態様に即し適宜アレンジして取り組みましょう。

- ・食品販売関連事業者や飲食店・宿泊業者の方は、「もったいない山形協力店」に登録し、食品ロス削減に向けた取組みを推進しましょう。～ 協力店への登録は県HPから [もったいない山形協力店](#)（⇒ [インターネットで検索](#)）～
- ・不要となった食材は、[フードバンク](#)などへ寄付をすることで有効に活用することができます。

※ フードバンクとは、家庭や職場で余った食品を持ち寄り食材の確保が困難な個人や福祉団体を支援するための活動、また、それを行う団体。

プラスチックごみ削減運動

- ◆ 日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位（2018 国連環境計画報告書）
- ◆ 2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測（※2016 世界経済フォーラム年次総会報告書）
- ◆ EUでは、使い捨てプラスチック食器や発泡スチロール容器の2021年からの使用禁止を検討

Reduce

（リデュース＝ごみを出さない）

- ・事務用品等の在庫管理の徹底による休眠物品の使用促進
- ・インクなど消耗品が交換・補充できるマーキングペン、ボールペン等の購入
- ・商品のビニール包装や容器、緩衝材等の簡素化

Reuse

（リユース＝繰り返し使う）

- ・会議やイベント等で、使い捨てプラスチック製食器に替えてリユース食器の使用
- ・社員食堂等におけるプラスチック製ストロー等の使用削減及びリユース食器の使用

Recycle

（リサイクル＝再生利用する）

- ・プラスチック廃棄物の適切な分別の徹底（例：ペットボトル、食品等付着の無いプラスチック、その他のプラスチック 等）

環境にやさしい製品の優先購入運動

製品やサービスを購入する際は、必要性をよく考え、長く使えるものや使い終えたらごみが少なくなるものなど、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入しましょう。

○エコマーク商品や山形県リサイクル認定製品を優先して購入しましょう

[エコマーク商品](#)（⇒ [インターネットで検索](#)） [山形県リサイクル認定製品一覧](#)（⇒ [インターネットで検索](#)）

発行：ごみゼロやまがた推進県民会議
お問い合わせ：ごみゼロやまがた推進県民会議事務局
山形県環境エネルギー部循環型社会推進課
TEL:023-630-2322 FAX:023-625-7991



ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』